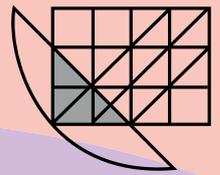


博物館だより



和歌山県立博物館

WAKAYAMA PREFECTURAL MUSEUM

No.27

2022.3

中世文書の宝庫・和歌山 写真で記録！

和歌山県は中世文書(主に平安時代末期～戦国時代頃までの古文書)の宝庫です。その数は膨大で、しかもまだまだすべてが明らかになつていくわけでもありません。今でも新発見の古文書群があります。

和歌山県(紀伊国)には、高野山・熊野三山などの大寺社をはじめ、県内各地の霊地・霊場や地域の有力寺社などに古文書がまじりまじり残ります。また、隅田党・湯浅党・熊野水軍などの武士団、さらには荘官・土豪・地侍など、現地有力者の個人の家にも多くの古文書が伝えられています。そして、なにより特徴的なのは、王子神社文書(重要有形民俗文化財)や柏原文書(和歌山県指定文化財)などのように、村に残されてきた文書などもあることです。古文書の内容・残り方ともにバリエーション豊かで、しかも身近に中世文書が感じられる希少な地域です。それらの古文書群が今なお現地に残ることは、すなわち中世以来、現在まで紆余曲折はありつつも、寺社・家・村などが継続的に営まれ、古文書を大切に守り伝えてきたことを表しています。これらの古文書群は、中世以来の地域の歴史を物語る生き証人でもあるのです。

和歌山県立博物館では、平成二五年(二〇一三)以降、東京大学史料編纂所と共同で和歌山県に関わる中世文書の撮影調査(記録)を実施してきました。和歌山県に関わる中世文書は、大部分が『和歌山県史』に採録されていますが、数点規模の古文書群については、採録しない方針であったため、実は漏れているものも意外とあります。また高野山や熊野三山に関わる膨大な文書群は、『大日本古文書 高野山文書』や金剛峯寺編『高野山文書』、『熊

野那智大社文書』、『熊野速玉大社古文書・古記録』など、既に史料集が刊行されていたことから、それらは県史には載せなかったようです。



和歌山県立博物館所蔵文書

市町村史の編さんやその後の調査で所在が明らかになったものもあり、また県史自体四〇年前に刊行されたものでもあるため、継続的な所在・現状確認調査、写真撮影による記録という作業が重要になってきます。

平成二五年度は、両機関がそれぞれ協力して湯河家文書の調査を実施し、特別展図録『きののくにの城と館―紀中の戦国史―』(二〇一四年)として、その一端を紹介しました。平成二六年度以降は東京大学史料編纂所の一般共同研究に参画して、和歌山県立文書館・高野山霊宝館・和歌山市立博物館などと共同で調査を継続しています。これら調査によって得られた画像(デジタルデータ)は、県立博物館と史料編纂所、文書所蔵者でそれぞれ保管し、史料

編纂所においては閲覧にも供しています。

県立博物館では、古文書の所在や現状を確認し、また記録を残すとともに、図録の図版などとして、博物館業務のなかで活用しています。例えば、『弘法大師と高野参詣』(二〇一五年)、『きののくにの名宝―和歌山県の国宝・重要文化財―』(二〇二二年)などは、これら調査で撮影した画像を用いています。また中世文書のみならず、平成三〇年度より小川八幡神社の大般若経に関わる共同研究も実施しています(継続中)。その成果については今年春の特別展「きののくにの大般若経―わざわいはらう経典―」にて、その一端を紹介する予定です。

このように県立博物館では、外部の機関と連携し、共同で調査研究を進め、その成果を展覧会などとして発信し、また資料の収集・保存活動にも努めています。紀北中心ではありますが、ここではこれまでに撮影した文書群(五七件(次頁表)、令和四年二月時点)の覧を紹介しています。これだけ多くの中世文書が残っている和歌山の現状と、また地味な作業ではありますが、それらを撮影して記録に残している、という博物館の資料収集・保存活動についてもご理解いただけたらと思います。



写真撮影の様子(2021年11月)

東京大学史料編纂所との共同研究による撮影写真一覧

No	文書群名	出典／刊本	撮影年度	備考
1	湯河家文書	『和歌山県史』中世史料二	2013	東京都
2	神護寺文書	『高雄山神護寺文書集成』	2014	重要文化財除く寺蔵分
3	清浄心院文書	金剛峯寺編『高野山文書』第3巻	2014	
4	岡見家文書	『戦国遺文 後北条氏編』 『伊奈町史』史料編—古代・中世	2014	
5	和歌山県立博物館所蔵文書	『きのくへの歴史と文化』 『熊野水軍小山家文書の総合的研究』ほか	2014	ほか 2016・2017 年にも追加撮影。新宅家文書・森家文書・神前家文書・久木小山家文書など
6	蓮乗寺文書	『和歌山県史』中世史料二	2014	
7	間藤家文書	『和歌山県史』中世史料二	2014	
8	極楽寺文書	『和歌山県立博物館研究紀要』14号	2014	
9	栗栖家文書	『和歌山県史』中世史料二	2014	
10	願成寺文書	『和歌山県史』中世史料二	2014	
11	岡本家文書	『日本史研究』425号 『紀州経済史文化史研究所紀要』19号	2014	
12	三船神社文書	『和歌山県史』中世史料一	2014	
13	短野区有文書	『かつらぎ町史』古代・中世史料編	2014	
14	高山寺文書	(『田辺高山寺の文化財』)	2014	
15	崎山家文書	『和歌山県史』中世史料二	2014	
16	明恵上人行状記	『明恵上人資料』第一	2014	
17	施無畏寺文書	『和歌山県史』中世史料二	2014	
18	福蔵寺文書	『御坊市史』第3巻 史料編I	2014	
19	衣奈八幡神社文書	『和歌山県史』中世史料二	2014	
20	丹生家文書	『かつらぎ町史』古代・中世史料編 (『収蔵史料目録5 丹生家文書目録』)	2016	和歌山県立文書館寄託
21	北家文書	『粉河町史』第3巻 (『収蔵史料目録6 北家文書目録』)	2016	和歌山県立文書館所蔵
22	高橋家文書	(『収蔵史料目録12 諸家文書目録2』)	2016	和歌山県立文書館所蔵
23	禅林寺文書	『和歌山県史』中世史料二	2016	
24	木本八幡宮文書	『和歌山県史』中世史料二	2016	
25	宝来山神社文書	『かつらぎ町史』古代・中世史料編 『紀伊統風土記』	2016	
26	蓮華定院文書	金剛峯寺編『高野山文書』第4巻	2017	2018年にも撮影
27	能仁寺旧蔵文書	『御坊市史』第3巻 史料編I	2017	
28	成慶院文書		2017	
29	御前家文書	『和歌山県史』中世史料二	2017	
30	宮原神社文書		2017	
31	西福寺文書	『和歌山県史』中世史料二	2017	
32	神光寺文書	『和歌山県史』中世史料二	2017	
33	安養寺文書	『和歌山県史』中世史料二	2017	
34	道成寺文書	『川辺町史』第3巻 史料編上	2017	
35	和田家文書	『和歌山県立博物館研究紀要』32号	2017	
36	太田家文書	『和歌山県史』中世史料二	2017	
37	桜池院文書		2018	
38	隅田八幡神社文書	『和歌山県史』中世史料一	2018	
39	隅田家文書	『和歌山県史』中世史料一	2018	
40	葛原家文書	『和歌山県史』中世史料一	2018	
41	小川八幡神社大般若経	(『南紀寺社史料』)	2019	2021年度まで継続調査
42	歓喜寺文書(和歌山市)	『和歌山県史』中世史料二	2020	
43	鷲森別院所蔵文書	『和歌山県史』中世史料二	2020	
44	林家文書	(『和歌山県市史研究』24号)	2020	2家分
45	向井家文書	『和歌山県史』中世史料二	2020	
46	淡島神社文書	『和歌山市史』第4巻	2021	
47	玉井家旧蔵文書	『紀伊統風土記』	2021	和歌山市立博物館所蔵
48	且来八幡神社文書	『和歌山県史』中世史料二	2021	
49	念誓寺文書	『和歌山県史』中世史料二	2021	
50	室谷家文書	『和歌山県史』中世史料二	2021	
51	西正寺所蔵文書	『和歌山県史』中世史料二	2021	関戸円明寺旧蔵
52	善勝寺文書	『和歌山県史』中世史料二	2021	
53	総持寺文書	『和歌山市史』第4巻	2021	
54	専徳寺所蔵文書	『和歌山地方史研究』9号	2021	大阪府泉南市
55	十津川宝蔵文書	『十津川宝蔵文書』、『十津川郷』	2021	奈良県吉野郡十津川村
56	風屋文書	『十津川郷』	2021	奈良県吉野郡十津川村
57	下葛川文書		2021	奈良県吉野郡十津川村

※刊本は全史料ではなく一部が載っているものも含んでいます。()は目録や奥書、写真図版のみなどを載せたもの。

特別展

きのくにの大般若経

— わざわいをほらう経典 —

4月23日(土)～6月5日(日)

全六〇〇巻という大乘仏典最大のボリュームをもつ大般若経(大般若波羅蜜多経)は、あらゆる災難を「空」にする力を持つ経典として、中世以降、地域の村落にもたらされて信仰を集めました。和歌山県内の神社には、奈良時代から明治時代までの大般若経が数多く伝来しています。

なかでも紀美野町の小川八幡神社には、奈良時代・平安時代の写本を中核とした貴重な大般若経が伝来し、約四年間にわたる東京大学史料編纂所との共同調査によって、ようやくその全貌がわかるようになりしました。この小川八幡神社の大般若経をはじめとして、今回の特別展では、和歌山県内に残された貴重な大般若経を紹介いたします。さまざまな災いを取り除くため、力を合わせて大般若経を入手して守り伝えてきた、きのくに—和歌山県の人びとの心に迫ります。

特別展

濱口梧陵と廣八幡宮

— 広川町の文化財とともに —

10月15日(土)～11月23日(水・祝)

濱口梧陵(1820～85)は、嘉永7年(1854)11月5日に安政地震が起こったとき、被災した村民救助にあたり、道端の稲むらに火を放ち、暗闇に戸惑う村民を廣八幡宮まで避難を導いたといわれています。この梧陵の業績は、「稲むらの火」として、今なお語り継がれています。



国史跡 広村堤防

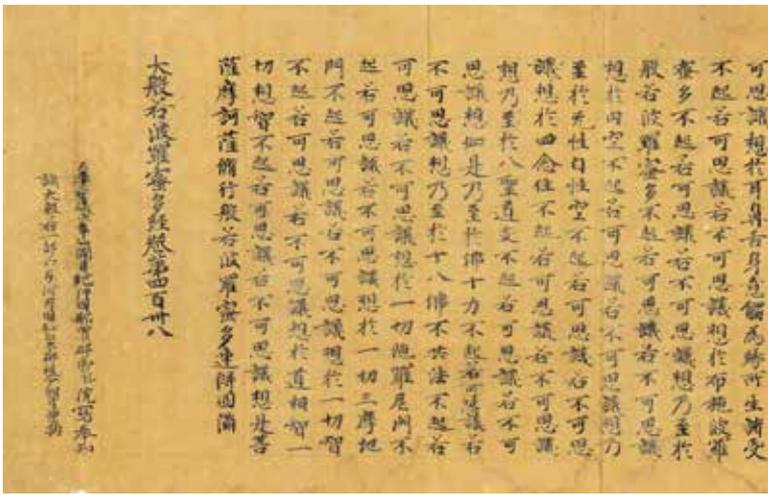


濱口梧陵写真(濱口梧陵伝)

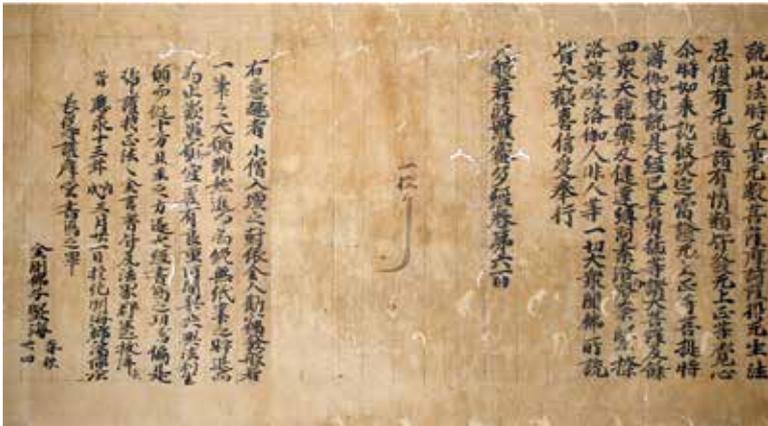
道が通り、海側は港町として栄えました。こうした広川町域には、東広荘の総鎮守社であった廣八幡宮をはじめ、貴重な文化財を有する寺社がたくさんあります。今回の特別展では、濱口梧陵の業績を紹介するとともに、山と海に育まれた広川町の文化財を紹介します。



廣八幡宮全景



大般若経(小川八幡神社蔵・奈良時代)



大般若経(長保寺蔵・室町時代)



紺紙金字法華一品経(廣八幡宮蔵)



(右)重要文化財(附) 若宮社造営棟札(廣八幡宮蔵)
(左)重要文化財(附) 高良社造営棟札(廣八幡宮蔵)

企画展	企画展	企画展	特別展	企画展	夏休みもみ向け企画	企画展	特別展	和歌祭創始400周年企画	常設展
川とともに生きる —川と人の関係史—	戦いの記憶	きのくにの信仰	濱口梧陵と廣八幡宮 —広川町の文化財とともに—	あの人からの手紙	地名のなぞ!?	幕末から明治のきのくにに文人画 —偉大なる師、野呂介石を慕いて—	きのくにの大江若経 —わざわいをはらう經典—	和歌祭と和歌の浦	きのくにの歩み —人々の生活と文化—
3月11日(土)～ 4月16日(日)	1月28日(土)～ 3月5日(日)	12月3日(土)～ 1月22日(日)	10月15日(土)～ 11月23日(水祝)	8月27日(土)～ 10月2日(日)	7月16日(土)～ 8月21日(日)	6月11日(土)～ 7月10日(日)	4月23日(土)～ 6月5日(日)	3月12日(土)～ 4月17日(日)	4月1日(金)～ 10月2日(日) 12月3日(土)～ 3月31日(金)
川から水を引いて作物を育て、川を利用して船で物資を運びました。一方、川の水をめぐって争い、大水(洪水)で命や財産を奪われることもありました。歴史における川と人とのかかわりを、さまざまな作品から紹介します。	昔の人々は戦いをどのように記憶・記録し、後世に語り継いできたのか。県立博物館が誇る合戦図屏風のコレクションを中心に、古文書や記録などとあわせて、中世の戦いを後の時代の人たちがどのように捉えていたのかを探ります。	きのくに(紀伊国)は、高野山や熊野三山など各地に霊場が存在します。都からほど近くにありながら、深い自然にとざされた紀伊国には、多くの信仰の場が生まれました。この企画展では、紀伊国で展開された信仰の様相を紹介します。	「稲むらの火」として有名な濱口梧陵(1820～85)の事績とともに、港町広の中心であった廣八幡宮の文化財を紹介します。あわせて濱口梧陵などを輩出した港町広の文化とともに、海と山に育まれた広川町の文化財も紹介します。	私たちが普段何気なく使っている地名。地名にはいったいどのような意味や歴史があるのでしょうか?夏休みの自由研究にもできるよう、和歌山県内の地名の由来やその移り変わり、地名の調べかたや面白さをわかりやすく紹介します。	県立博物館に収蔵されている、羽柴秀吉・徳川頼宣・徳川吉宗らの大名、祇園南海・桑山玉洲・野呂介石の3大文人画家、陸奥宗光・南方熊楠・徳川頼貞といった近代の人物など、さまざまな人びとからの書状・書簡類を紹介します。	野呂介石の画風や志は、幕末(江戸時代末期)から明治時代初頭に和歌山で活躍した画家たちに受けつがれました。弟子の野呂松廬や野際白雪をはじめ、影響を受けたと考えられる岡本緑邨らの作品を中心に紹介します。	和歌山県内には、奈良時代に遡る小川八幡神社(紀美野町)をはじめとして、古代・中世の時期に書写された大江若経のセットが残されており、近世には印刷された大江若経が多くみられます。県内に残る代表的な事例を紹介します。	令和4年(2022)は、和歌祭が元和8年(1622)に創始されてから400年の節目にあたります。この企画展では、和歌祭400年の歴史を振り返るとともに、その舞台となった景勝地・和歌の浦についても紹介します。	三万年にわたるきのくにと和歌山県の歴史を、人々の生活と文化を主題として、七つのコーナーに分けて、時代の順にわかりやすく展示します。なお、特別展「濱口梧陵と廣八幡宮」の開催期間中は、常設展示を行っていません。

お知らせ

◆博物館では、主要な作品をイヤホン式ガイド機で解説する音声ガイドを[※]提供しています。(一般二〇〇円、高校生以下一〇〇円)。
常設展については、上級コース・英語版もあります。

◆博物館では、学校行事での利用はもちろん、職場体験やミュージアムボランティア・教員研修など、学校と連携した教育・普及活動にも取り組んでいます。詳しくは当館学芸課までお問い合わせ下さい。またホームページにも案内を掲載しています。

URL <https://www.hakubutu.wakayama-c.ed.jp>

和歌山県立近代美術館(博物館となり)の展覧会

企画展「モダン・プリント コレクションにみる世界の版画」
4月9日(土)～6月26日(日)

企画展「なつやすみの美術展12」
7月5日(火)～9月4日(日)

特別展「稗田(穂)展」
9月10日(土)～11月6日(日)

企画展「ニッポンの油絵」
11月12日(土)～12月25日(日)

特別展「てびつととき 池田清寿夫にデモクラシーの仲間たち」
2月4日(土)～4月9日(日)

博物館の利用案内

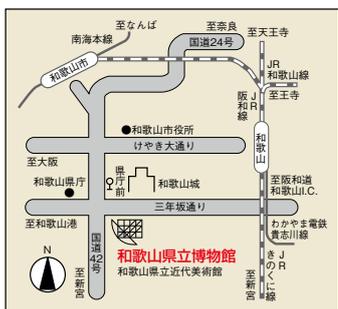
開館時間 午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで) 駐車場

休館日 月曜日(祝休日の場合は翌平日)、年末年始。展示替えや改修工事とともなって臨時休館する場合があります。詳しくは博物館までお問い合わせください。

入館者	2時間まで	無 料
	以後30分ごと	100円

※大型バスでご利用の場合はお問い合わせ下さい。

交通



JR和歌山駅または南海和歌山市駅から「県庁前」(バス停)下車、徒歩2分

入館料

〈常設展・企画展〉

	一般	大学生
個人	280円	170円
団体	230円	140円

※高校生以下、65歳以上、障害者手帳の交付を受けている方、県内に在学中の外国人留学生は無料です。
※企画展示室の展示替え期間中は常設展示のみとなります。

〈特別展 きのくにの大江若経—わざわいをはらう經典—〉
(常設展示も行っていきます)

	一般	大学生
個人	520円	310円
団体	420円	250円

〈特別展 濱口梧陵と廣八幡宮—広川町の文化財とともに—〉
(常設展示は行っていません)

	一般	大学生
個人	830円	520円
団体	680円	410円

まちなかの博物館・美術館をめぐる!

和歌山市内5館(和歌山県立近代美術館、和歌山県立博物館、和歌山市立博物館、和歌山城天守閣、わかやま歴史館)の相互割引制度がありますので、是非ご利用ください。

和歌山県立博物館 博物館だより 第27号

編集 和歌山県立博物館

〒640-0813 和歌山市吹上二丁目4番14号
TEL (073) 436-8670
<https://www.hakubutu.wakayama-c.ed.jp>

令和4年(2022年)3月発行